

科目名		学年	
会計監査論 : Auditig		2K	
教員名		田川 晋也 : TAGAWA Shinya	
単位	授業時間	科目区分	授業形態
2	100分×15回	選択	講義・前期
<b>授業概要</b> 会計監査は、財務情報の信頼性を確保するために行われる。信頼性付与の手続きは、他の監査にも応用されているので、まずは会計監査についての十分の知識の習得を目指す。実際の事例を検討しながら授業を進めていく。			
到達目標		評価方法	
1. 会計監査の役割を理解できる。 2. 会計監査の手続きを説明できる。 3. 内部統制の監査上の役割について理解できる。		①期末試験(80%)、②演習レポート(10%)、③自学自習によるレポート(10%)によって評価する。	
学習・教育目標		(C)①	JABEE基準1(2)
			(d)-(1)
授 業 計 画	回	項目	内容
	第1	会計監査のフレームワーク①	監査の定義、必要性
	第2	会計監査のフレームワーク②	監査の限界、監査の種類
	第3	会計監査の生成	イギリスとアメリカでの監査の発達史
	第4	日本の監査制度	金証券取引法監査と会社法監査
	第5	期待ギャップと監査戦略	期待ギャップの解消
	第6	監査基準	監査基準の意義、体系
	第7	一般原則	監査人の義務・責任
	第8	内部統制①	内部統制の構成要素、内部統制の運用
	第9	内部統制②	内部統制監査
	第10	監査計画	リスクアプローチにおける監査計画
	第11	監査手続	監査手続の種類、分析的手続、試査
	第12	監査意見	監査意見の意義、二重責任の原則
	第13	監査報告書	監査報告書の記載事項の意義
	第14	監査のひろがり	保証業務
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。また授業評価アンケートを行う。	
自学自習の内容		教科書の章末問題を課題とする。	
関連科目		会計学原理Ⅰ・Ⅱ	
教科書		ケースブック監査論(吉見宏・新世社)	
参考書		監査入門ゼミナール(長吉真一・異島須賀子・創成社)	
授業評価・理解度		最終回にアンケートを行う	
副担当教員			
備考		必要に応じてプリント教材を配布する	